

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でごく普通にくらす。 買い物、理髪、外食、自宅への外泊。	○	一泊の温泉旅行。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回開かれるGH会議などで、個別ケアを具体化するための話し合いが行われる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会を開きご家族に理解していただけるようお話をしたり、ご家族からの意見を聞く。散歩にご利用者と出た時地域の人達と気がるに話をする。	○	個別ケアでご家族と地域の行事に参加したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩途中に隣近所の方とお話したり、野菜などを頂いた時は、お返しするなどの配慮をしている。	○	近所の野菜売り場まで、歩いて野菜を買いに行く。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しGHサルビア日々の生活をお話する。防災と福祉を考える、梓川地区の集いに職員が参加し、地域の方と共に防災について考える。	○	サルビア祭の案内状ご利用者と配布する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設されている、介護老人福祉施設サルビアと一緒に介護教室を開き、介護方法、認知症について、など勉強する機会を設けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員と利用者が話し合いしながら、居室、トイレなどの環境を考える。(担当とする居室、トイレがある)	○	職員側の立場だけでなく、ご家族、利用者から見ての環境を考えながら行う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に出る機会を多くもつ。	○	地域の方に知っていただく為、地域に向けてのGHサルビア新聞の発行。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域と福祉を考える会に出席し交流を深める。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対象とすること利用者が居る為、代表者、地域包括センターの職員と話し合いながら支援している。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者を動けないように座って頂くのも虐待につながる。具体例を出しミーティングなどで話し合い、職員の意見も聞く。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	GH内見学後、まずご本人、ご家族の想いを聞くようにしています。そのうえで、十分な説明を個別にしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者通常の勤務と違う日には、特に自分の想いを事務所に来て、ゆっくり話していかれます。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回の割合で会計帳簿等見ていただきながら、利用者の生活状況をお話する。	○ 面会后事務所前のテーブルにて、職員とご家族が気軽に話せる空間を設けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議の開催。	○ ご家族の想い受け止め、ご家族と利用者と食事、散髪セットにした外出計画をした。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議や、家族会などで、都合のつく方は、自由に参加していただき、意見の出しやすい雰囲気になっている。また家族の面会后管理者から、利用者の生活状況を話したり、家族の想いを聞く時間を意図的に設ける。	○ どのご家族にも出席しやすい様、曜日指定はしない。

グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	チューター制度を利用し新人育成に努めている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・評価制度の取り組み。(目標に向かって研鑽努力他、自主参加の研修も含む) ・半期ごとの面接の中で総合的に職員の意見や悩み等の聞き取り。	○	チューター制度の取り組み。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安なことが利用者であれば、落ち着いて一対一で話せる雰囲気作り(廊下談話スペース)をしています。相手の方のお話を沢山聴く様心掛けています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	談話スペースで他の方に遠慮することなく、話せる雰囲気作りをしている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの本来の目的をお話し、目的が、身体介護等ならば、他のサービスを紹介する。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初は自宅にもどる機会が多く、気軽に外泊、外出できるようご家族と話し合いながら、自由に選択できる時間をさりげなく作る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事を作りながらも、野菜の切り方など、教えていただきながら、食事作り。	○	職員間で言葉など微妙に違うので、会議などで統一を図る。
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外食、外出など家族、利用者、職員と一緒に楽しむ機会を計画する。	○	家族が経営するラーメン店に利用者と一緒に行く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	気軽に来ていただき、気軽にフロアーまたは、居室でお茶を飲んで頂ける雰囲気作りをしている。	○	食事会、鍋会など家族、利用者、職員で楽しむ。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時など馴染みの場所を目的地として、計画する。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	糖尿病などで、食事制限のある方と同じテーブルで食事楽しむ。	○	午前中のお茶は外が見える大テーブルでお茶を飲むが、食事時は、食べるペースなど利用者にあわせた自分の椅子、テーブルでの食事となる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族、身体等の都合により、併設されている福祉施設に入所された方に利用者と職員とで面会に行く。	○	遠方の方に手紙を出す。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	拒否の場合無理強いはいしない。食べたいもの、行きたい場所、利用者の意見聞き計画に取り入れる。	○	花の好きな方は、花屋さんを見てからの食事。
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食事作り、草取りなど昔やっていた事を無理せず、さりげなく生活の中に取り入れている。		
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お茶入れ、野菜切り、おしぼり作り、盛付など、役割分担がある。	○	さりげない働き。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のGH会議には、個々人のモニタリングを行う。面会后家族の気づきアイデア等聴きながら、ケアプランに加えるなどの検討をはかっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のGH会議を利用して、行っています。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを別に作り記入している。	○	個別に支援経過として月2回は記入する方法をとっている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練の実施。ボランティアの協力により、月1回の生け花、おそばの日を楽しむ。	○	梓地区の子供たちに、もっと気軽に来てもらいたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他市の方も入所申し込みがあるが、原則として松本市住所の方(地域密着)とお話する。		



グループホーム サルビア

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	1名対象者がいるので、包括支援センターの職員と相談のうえ、行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の意思を大切にしている。入所前の医師での継続受診。主治医による、定期受診、往診を受けている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師による、個別ケア検討会、勉強会を設け職員が直接、事例による質問を受けました。	○	定期的に行いたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設されている、介護老人福祉施設サルビアの看護職員に助言をいただく。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	骨折の為入院した利用者など、退院時病院と密に連絡とりながら、いつ退院してもよいように居室を整えておきました。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の了解のもと、必要と思われる場合は、医師による往診を行う。	○	主治医と職員の話し合いの機会を定期的 to 設ける。

グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族の意思も考慮。併設されている介護老人福祉施設に入所希望者有り。職員間で終末ケア、重度化対応の介護方法を話し合う時間を多く設けている。	○	緊急時、マニュアル対応など職員間で熟知する。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族の協力のもと、自宅への外泊・外出の機会を設けている。本人の思いを聴くとともに、ご家族から感じた本人の想いを聴く。		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みが、つい馴れ合い言葉になっている。	○	赤ちゃん言葉の利用者に対しつい、赤ちゃん言葉が出てしまう。居室のドアは必ず閉める。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝、入浴時など、衣類の選択、利用者の希望を聞く機会を多く持つよう努めている。		

グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝などは、特にその人のペースに合わせた起床時間となっている。 GHサルビア起床・就寝マニュアル作成。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容はその方の望まれている店に行かれる人もいます。基本的に理髪は、店に行きません。髪染め希望の方もいますので、お店に行き外出、外食も楽しめます。	○	美容室と外食セットで外出を楽しむ。
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけをして食事作りなど、一緒に関わりがら行っている。 GHサルビア食事マニュアル作成。	○	おやき、饅頭、漬物など、昔ながらの料理の計画を立て、一緒に作る。 クッキー、ケーキ作りなども挑戦する。
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好の支援は、その時の状況に合わせて行っている。	○	買い物時など、本人の望む食材を選んでもらう。喫茶コーナー、外出時など、選択できる機会を持つ。日本茶だけでなく、随時コーヒー、紅茶、昆布茶など、希望にあわせてお茶をする。
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便秘症の方に対する、水分補給、食事メニューの工夫に取り組んでいる。 各自のチェック表をつけて、それぞれの排泄パターンを把握している。 GHサルビア排泄マニュアル作成。		

グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏夕食後の入浴タイムの導入。 日曜日での、大風呂での、複数者入浴。 (希望聞きながら) GHサルビア入浴マニュアル作成。	○	ハーブ、ミカン、りんご、バラ湯など楽しむ。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事時の低位置のみならず、居室以外に、くつろげる椅子、眺めのよいテラス、窓側のスペースを活用している。	○	アロマテラピー(安眠) 休憩時、入眠時などの音楽の取り入れ。 TV見たい方は、自由に見れる環境作りフロアでも気軽に横になれる空間作り(ソファなど)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶入れ、食事作り、盛り付け、食器洗い、掃除機がけ、洗濯干しなどの役割がある。 施設レク(習字、絵手紙、コーラス、)参加。 生け花、花壇作り、畑、ピアノが楽しみ。	○	リース作り 昔ながらの食事、おやつ作り 園芸、昔の音楽
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	開所したばかりは、可能だったが、今はできていない。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前、買い物と一緒に出かける。 時間的に可能な時は、希望にそえる外出先に寄りつたりする。 GHサルビア散歩マニュアル。	○	地域で、散歩、外出に楽しめる目的作り。(あの店に行こう。子供たちに会いに行こう。あの家の花を見に行こう。)など。

グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春(花見)秋(紅葉がり)に外出。 家族も同行する機会も作っている。 GHサルビア外出マニュアル作成。	○	地域のイベントなどに無理なくご利用者の楽しみとなる様参加。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと申し出があれば、事務所より、落ち着いて電話ができる。	○	ご利用者と絵手紙(クリスマスカード、年賀状作り)
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している		○	家族、本人が信頼している友人の方々との連絡、交流。 訪れやすい条件作り。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを熟読し取り組んでいる。 事故報告書記入し、職員間で話し合う。	○	車椅子、自操しない方を、長時間テーブルにいる状態にしない。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	8:30から17:30まで施錠はしない。(ただし、職員がフロアーに一人となり、かつ介助の為居室に入る時は、施錠を行う場合がある。)	○	全員で鍵をかける事によるマイナス面について何回も話し合う。

グループホーム サルビア

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室・・その方の状況に応じている。 (居室担当職員が、他職員や利用者話し合 いで配置) フロアでは、なくすのではなく、注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を書くなどし、報告書に基づきG H会議で話し合い、意識を高めていく。 避難訓練に参加し、学ぶ。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	GH緊急時マニュアル作成。	○	利用者の健康状態と起こりうる、急変について主治医と共に検討し、学習する。(定期的 に)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	定期防災訓練施設内だけでなく、地域の人 達と一緒にいる。	○	地域のイベントなどにご利用者の楽しみとなる 様無理なく参加。 避難場所や道路周辺の状況など周知しておく。 近所の方と交流ふやしていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族会などで、気軽に意見を出せる雰囲気 作り。面会時など、近況を話すとともに、リ スクについても、お話しする。		

グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の記録及び連絡ノート等利用し、情報の共有をはかっている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医を招き、個別の服薬説明と注意点を 知る勉強会をもうけた。	○ 利用者の状況が変わるので、定期的に勉強会をもうけたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別にプランを立て行っている。 薬による排便ではなく、(カマ等は止め、朝の水、牛乳無理な人にはジュース、ヤクルトなど)	○ ひじき、切り干し大根など定期的にメニューに加える。 週一回ヤクルトさんより、ヤクルト400・ヨーグルトの購入。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	GHサルビア口腔ケアマニュアル作成。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶時など好みのものを聞き、お出りする。 食事中は、テレビを消し食事に集中し、会話楽しみながら、ゆっくり食べる。	○ ゆっくり食事が出来る雰囲気づくり、食後職員はばたばたしない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルス、手洗い方法のマニュアル作成。	○	スタッフ全員が熟知しておらず、まだまだ知識不足である。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は、週に一度消毒を行っている。食材の賞味期限は、スタッフ各自チェックするとともに多く作り過ぎない配慮をしている。	○	台所の衛生管理が不十分である。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、花や植木を置き、明るい雰囲気になっている。また、誰でも気軽に出入りできるよう、施錠はしていない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、生活音以外は不快な音がしないよう、配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側のテーブルには、皆が楽しめる様に、雑誌、新聞、歌集、エレクトーンなどが置いてある。	○	食事テーブル以外にも、自分の気に入った椅子(空間)がある。



グループホーム サルビア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使いたれた家具</p> <p>・利用者2人と話し合いながら好みに合わせた、飾りつけを一緒に行う。 (写真など)</p>	○	<p>・ご利用者と一緒に花を飾る。</p> <p>・雑誌をさりげなく置く。</p> <p>・アルバムの整理一緒に行う。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>朝清掃の時や14:00頃窓を開け換気をする。</p>	○	<p>・冷房や暖房はこまめにチェックする。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴室の手すり、取り付け本数増す。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>食事作り、草取り、出来る方は無理せず「楽しむ」感じを大切にして、一緒に行う。</p>	○	<p>・一人ひとりのできる事を探していく。</p> <p>・出来ることは時間がかかってもご利用者のペースで行い見守る。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>・花壇作り。</p> <p>・畑での野菜、ドライフラワー用の花作り。</p>	○	<p>・天気の良い日にはテーブルを外に出しお茶会を行うなど、外気にふれあう。</p> <p>・ベランダ近くに畑があり野菜の成長、収穫を楽しむ。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム サルビア

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

環境面など、チームで考えながら、実践実行、見直し等を考える過程をとっている。